

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立港晴小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	港区
学 校 名	大阪市立港晴小学校
学 校 長 名	田村 亮

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立港晴小学校では、第6学年 22名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立港晴小学校の結果概要

国語は全国平均を下回ったが、記述式問題では全国平均を上回り、自分の考えを文章で表現する力に成果が見られた。算数は全国平均を上回り、特に思考・判断・表現や記述式問題で成果が見られた。また、数量の関係を捉え、根拠をもって考える力についても一定の定着が見られた。一方、国語では必要な情報を読み取る力や漢字等の基礎的な知識・技能、算数では図形の意味理解や表から必要な情報を読み取る力に課題が見られた。今後は、各教科の成果を生かしながら、基礎学力と活用する力をバランスよく育成していく必要がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

文章を読んで理解したことを自分の経験と結び付け、自分の考えをまとめて書く力に成果が見られた。また、表現の工夫を捉える力も身に付いている。一方、目的に応じて文章から必要な情報を見付けることや、漢字を文脈の中で正しく使うことに課題が見られた。今後は、基礎的な知識・技能と読む活動を関連付けた指導が必要である。

〔算数〕

数量の関係を捉え、根拠を示して説明する力に成果が見られ、思考・判断・表現を必要とする問題でも力を発揮している。一方、図形の意味を捉えることや、表から複数の条件に合う情報を読み取ることに課題が見られた。今後は、図・表・式・言葉を関連付け、数学的な意味を理解する学習を充実させる必要がある。

質問調査より

自己肯定感や友達と協力して学ぶ姿勢が高く、算数についても得意意識や理解度、粘り強く取り組む姿勢が見られた。また、国語の学習に対する興味・関心も高い傾向にある。一方、学校生活への肯定感や家庭での学習時間には課題が見られた。今後は、一人一人が「分かった」「できた」と実感できる授業づくりを進めるとともに、自ら課題を見付け、計画的に学習を進める力を育てる必要がある。

今後の取組（アクションプラン）

国語では、漢字や語句等の基礎学力の定着を図るとともに、目的に応じて必要な情報を読み取り、根拠をもって表現する学習を充実させる。

算数では、図・表・式・言葉を関連付け、考えを説明する活動を充実させる。また、ICTを活用して一人一人の課題に応じた学習を進めるとともに、「課題を選ぶ・取り組む・振り返る」活動を通して、自ら学習を調整する力を育成する。